

ごみの発生抑制を最優先とした3Rの取組みの拡充



リデュース Reduce 発生抑制

- ★燃やすごみの約5割を占める生ごみは、工夫次第で減量できるため、優先して取組みをすすめます。
 - まだ食べられるのに捨てられている「食品ロス」の削減
 - 生ごみ処理機の普及
 - 水切りの啓発
- ★事業者の生産、流通、販売工程における使い捨て物品の削減をすすめます。
- ★ごみ減量のため、事業系ごみの処理手数料の見直しや、家庭系ごみの有料化を継続していきます。



リユース Reuse 再使用

- ★不用になった家具等のリユースをすすめるため、不用品登録制度「リユースネットかまくら」(*)の普及や、イベントでのリユース食器の利用費補助を行います。
 - * 市役所掲示板やインターネットで、不用品を欲しい人に譲る制度。
- ★リサイクルショップ、フリーマーケット等、地域や民間事業者による取組みを情報発信し、地域の自立した活動を支援します。



リサイクル Recycle 再生利用

- ★今後の法制度、技術動向、環境負荷や経済性を見据えながら、現在の分別区分の見直しや、新たな資源化方法の検討を行います。
- ★事業者の責任に基づき実施している、スーパー等における資源物の店頭回収を促進します。



ライフスタイルや事業活動の見直しを促す情報発信の推進



市民向け

- ★学校や地域での環境学習の推進や、自治・町内会等の自主的な3Rの取組みを支援します。
- ★大量消費から、モノを大切にするライフスタイルへの転換に向けて、使い捨て製品の使用を控えるよう呼びかけます。個人でモノを所有しないレンタルやシェア(共同所有)も3Rにつながることを発信します。
- ★幅広い年代に分かりやすい内容を多様なツールを使って、情報を発信します。
- ★ごみの分別の悪いクリーンステーションやワンルーム等の共同住宅や、転入者を中心に、分別方法の周知を行います。また、不適正な排出に対して、必要に応じてごみの内容物調査を行い、啓発・指導を行います。



事業者向け

- ★事業系ごみは、業種や規模により排出形態が多岐にわたり、分別方法が理解しにくいことが課題です。今後は、各業種の3Rの取組み事例を研究し、きめ細やかな分かりやすい情報提供を行います。
- ★事業系燃やすごみの中に約24%の資源物や産業廃棄物が混入しています。そのため、ごみの展開検査機による検査を実施し、指導を強化するとともに、専任チームによる事業者訪問を積極的にすすめます。

市民、事業者の皆様と「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現を目指して

～計画の6つの基本方針と主な取組みを紹介します～

適正かつ持続可能な廃棄物処理の推進



- ★環境負荷の低減を図り、適正で安定的な処理を行います。
- ★処理経費を減らすため、処理量の削減に努め、収集運搬や中間処理方法を見直します。
- ★ごみの不法投棄や資源物の持ち去り対策をすすめます。

市民サービスの向上や事業者の適正処理に向けた環境の整備



市民サービスの向上

- ★超高齢社会の到来や行政サービスの向上等を考慮し、家庭系ごみの戸別収集を検討します。また、ごみの排出が困難な方を対象に、週1回訪問して収集を行う声かけふれあい制度の拡充を図ります。
- ★ごみの分別方法が複雑になっているため、分別しやすい方法を検討します。



事業者の適正処理に向けた環境の整備

- ★小規模な事業所の適正処理を推進するための体制を検討します。
- ★環境マネジメントシステム「かまくらエコアクション21」の導入に向けた支援や、ごみの減量・資源化に取組む事業者の積極的なPRを行います。

市民、事業者、行政の連携・協働による取組みの活性化



連携・協働体制の整備

- ★市民、事業者、行政間の情報交換や交流を深め、連携して3Rをすすめます。
- ★自治・町内会等から選出した廃棄物減量化等推進員とともに、地域での3Rの取組みを広めます。
- ★観光客にごみの持ち帰り等の協力を呼びかけます。



事業所としての市の取組み

- ★市は組織全体で率先し、職員一人ひとりの3Rの取組みをすすめます。
- ★市が購入する物品は、再生品等の環境負荷の少ないグリーン購入対象品を選択するよう努めます。

将来にわたる安定的な処理に向けたごみ処理施設の整備



- ★既存の焼却施設が老朽化しているため、平成37年度の稼働を目指し、新ごみ焼却施設の整備を行います。施設建設にあたっては、安全・安心で、環境に十分配慮し、市民に愛され、地域に開かれた施設を目指します。
- ★リサイクル施設等のごみ処理施設のあり方を検討します。